

# 景観 こぼれ話

## 高積山と高積神社

高積山は、和佐小学校校歌にも「朝日かがやく高積の山のみどりの美しさ」と謳われる地域のシンボリックな存在で、東部地域の随所から眺めることができます。昔はヤマモモやアケビを採るなど、地域の子どもの遊び場でした。

高積山にある高積神社には、「上の宮」と「下の宮」があります。10月に開催される秋季大祭では、下の宮から神輿が巡行し、獅子舞の奉納があります。戦後一時期途絶えましたが、地元住民が復活させ今も受け継がれています。

高積山の麓の和佐集落では、集落の共用空間を維持するため、住民総出で川の溝さらえや道普請などをしていました。いまでは桜の木の下での笹刈り作業が協力して行われており、その作業は「馬場づくり」と呼ばれています。かつて道普請のことをこう呼んでいた名残を、現在みんなで協力して取り組む作業に見ることができます。



上：高積山  
中：高積神社 下の宮  
下：かつての境内の広さを  
を思わせる、離れたところ  
にある御旅所

## 豪族の力

### ～岩橋(いわせ)千塚古墳群と、宮井用水～

岩橋千塚古墳群は、約 800 基の古墳群からなり、その数は全国でも最大クラス古墳群です。かつて和歌山平野を支配していた「紀氏」を中心とする豪族たちによって、4世紀末から約 200 余年の間につくられたと言われています。

東部地域を流れる宮井用水は、弥生時代末期から古墳時代初期に開削が始まったとされる灌漑用水路です。日前宮の宮司を務める紀氏が整備を進め、米を生み出す豊穡の地をつくり出し、これが紀の川流域の豊かな歴史文化の基盤の基となったと言われています。全長 28km に及ぶ用水路は、今も東部地域の、ひいては和歌山平野の水田を潤し、恵みをもたらしています。



上：紀伊風土記の丘 下：宮井川



上：農村集落（金谷） 下：水路の風景（井ノ口）

## 東部地域の景観

東部地域は紀の川の南に位置する、東西に長く平坦なエリアです。地域の中央には迫り出すように存在する高積山は、地域のシンボルとなっています。

大陸文化の影響が色濃く見られる「岩橋千塚古墳群」があり、随分古い時代から人が住みついていた地とされています。

紀の川から引き込む用水路が張り巡らされ、田園が広がり、農業を主体とする集落が点在しています。

また、熊野古道が南北に通る、今も王子跡や街道沿いの集落が見られます。



### 問い合わせ先

和歌山市 産業まちづくり局 都市計画部 都市再生課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地 Tel(直通): 073-435-1048

# 魅力マップ

～東部～

## 松下公園

明治 27 年にここ禰宜に生まれた、パナソニック（株）の創業者の松下幸之助。生誕地の隣の公園は、その業績を称えて松下公園と名付けられた。



## 旧中筋家住宅

江戸時代末期に栄えた和佐組大庄屋の屋敷。主屋は嘉永 5（1852）年に建設され、3 階の望山楼や 20 畳敷きの大広間など、紀の川流域随一の規模を誇っている。

平成 12 年から約 10 年間にわたって保存修理を行い、平成 22 年から一般公開を開始した。主屋のほか、表門、長屋蔵、御成門などが国の重要文化財に指定されている。



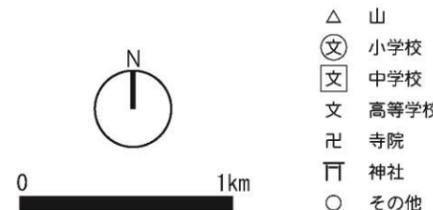
## 紀伊風土記の丘

岩橋（いわせ）千塚古墳群は 800 基を超える全国一の大古墳群で、総面積 65 万㎡の園内には、その古墳が点在するほか、竪穴式住居の復元や移築民家集落、万葉植物園などがある。



## 矢田峠

熊野古道の、和佐から山東へと向かう峠。紀の川流域や、遠く和泉山脈を見渡すことができる。



上：水路の風景（和佐）  
右上：熊野古道沿いの水路（井ノ口）  
右下：用水分水樋（栗栖）



## コラム 張り巡らされた水路の景観

東部地域では豊かな水が、用水路によって網の目のように流れています。上流で紀の川から引き込み、あるいは城ヶ峰や鳩羽山、御茶屋御殿山などの山々の麓にあるため池から流れ出す水です。

これらの水路は栗栖で分岐しており、例年田植えから刈り入れまで水量が増え、迫力ある景観を見せてくれます。

## コラム 集落景観 いろいろ

田畑の中に、集落が点在しているのが東部地域の特徴で、多くは農業を主体とする集落です。和歌山市の最も東にあたる上三毛集落はその一例で、少し高くなった場所にあるため、集落の中から紀の川流域の広がりを感じることができます。

また熊野古道も通っており、街道沿いには当時の面影を見せるまちなみもあります。紀の川流域随一の規模を誇る文化財「旧中筋家住宅」は熊野古道沿いにあります。



上：眺めのよい上三毛集落  
左：川端王子跡